

学生便覧
2026年度

健康科学部
理学療法学科

B2026-5

目次

I	教育研究上の目的	2
II	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	2
III	教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）	3
IV	授業科目について	4
V	授業科目の単位と認定	4
VI	卒業に必要な単位について	4
VII	理学療法士国家試験受験資格について	4
VIII	進級基準	4
IX	授業科目の学年配当と履修すべき単位数	6
	1. 全学共通基盤科目	6
	2. 外国語科目群	9
	3. キャリア形成科目群	10
	4. 専門基礎科目群	11
	5. 専門科目群	13

I 教育研究上の目的

健康科学部は、国際的・地域的視点から保健・医療・福祉分野の問題に関する教育研究を通じて、その分野を横断し現代の健康問題に対応することができる総合的視野を持った人材を養成する。

理学療法学科は、国際的視野と科学的知見に基づき、理学療法学領域の教育研究を通じて、新たな時代の保健・医療・福祉に貢献し、専門職の学問的内容に見識を有する人材を養成する。

II 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

健康科学部 理学療法学科は、所定の単位を修得し、かつ以下に該当すると判断した場合に、学士（理学療法学）の学位を授与する。

1. 理学療法について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
2. 理学療法を提供するために必要な技能を身に付け、活用することができる。
3. グローバル化及び少子高齢化が進む社会において求められる語学力、情報リテラシー、組織運営のマネジメントについて理解し活用することができる。
4. 理学療法の提供に必要な倫理観を身に付け、人の尊厳について理解し行動することができる。
5. 国内外を問わず、急速に変化する社会情勢に目を向けながら、医療、保健、福祉に関する問題に関心を持ち、その理解に向けて考え行動することができる。
6. 修得した知識・技能を活かして、主体的に目標を立てて行動し、課題を発見し、解決に努めることができる。
7. 生涯学習する意欲と能力を身に付け、多職種間で連携・協働するための知識、コミュニケーション能力、思考力、協調性を持って行動することができる。

III 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

健康科学部では、教育研究上の目的*に基づき、福祉・医療・保健の専門性を有する人材を養成するため、学生一人ひとりの資格取得やキャリア目標に応じたカリキュラム（教育課程）を編成する。

健康科学部理学療法学科では、教育研究上の目的及びディプロマ・ポリシーに基づき、理学療法領域の教育研究を通じて、新たな時代の保健・医療・福祉に貢献し、専門職の学問的内容に見識を有する人材を養成するために、以下に掲げる方針に則ってカリキュラム（教育課程）を編成する。

理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に準拠した教育内容と科目を必修科目として集約し、基礎医学科目から理学療法専門科目へと段階的に科目を配置する。

1. 文理融合型リベラルアーツとして、幅広い教養、新たなリテラシー及び総合的な洞察力を身に付けるため、全学部共通基礎科目群を設置する。
2. グローバル化が進む社会で活躍できる素地を養うため、外国語科目群を設置する。
3. 国内外を問わず社会に貢献するため自らの専門性を考察し、保健・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち主体的に行動する力や生涯学び続ける意欲を養うため、キャリア形成科目群を設置する。
4. 理学療法を学ぶ基礎を固め、医療人としての倫理観やコミュニケーション能力を身に付けるため、専門基礎科目群 I を設置する。
5. 人体の仕組みと成りたち、そしてその機能を系統立てて理解し、さらに人体の運動や心身の発達について学ぶため、専門基礎科目群 II を設置する。
6. 医学・医療分野の基礎を学び、様々な疾病や障害の発症、予防、治療、回復過程に関する知識を習得し、さらに、栄養や救急救命、画像診断など医療に関する幅広い知識を身につけるため、専門基礎科目群 III を設置する。
7. 社会保障論や地域包括ケアシステムなどの保健・医療・福祉の知識と自立支援や就労支援を含むリハビリテーションの理念を学び、またチーム医療を実践するために必要となる連携教育の理念から実践までを習得するため、専門基礎科目群 IV を設置する。
8. 理学療法の基礎から研究マインドまで系統的に理学療法を学ぶため、専門科目群 I を設置する。
9. 医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、理学療法教育に必要な能力や職業倫理観を高めるため、また理学療法評価・治療の理論から実践技術までを身につけるため、さらに理学療法の対象となる全ての人に対して地域における生活を支援するために必要な知識や考え方を学ぶため、専門科目群 II を設置する。
10. 理学療法における総合演習と臨床実習を通して、知識、技術、思考、さらに実践力を養い、実際の臨床場面で活躍できる力を身につけるため、専門科目群 III を設置する。
11. アセスメント・ポリシーに基づく学修アセスメント・プランを提示し、ディプロマ・ポリシーに示す能力の修得状況及び学生の成長に伴う達成度を客観的に測定、評価する。

以上の教育課程の編成に基づき、各授業内容に応じて、知識の修得を目的とする「講義」、知識や理論を組み合わせ実践力を養うことを目的とする「演習」、事象の検証や実践的な応用、技術や技法の修得を目的とする「実習」、「実技」を取り入れた授業形態を採用する。また、社会のニーズを踏まえた教育を展開することができるよう、主に専門科目群に実務家教員を配置する。さらに、合理的な授業人数の調整やICTを活用した教育方法を導入し、より効果的な教育を実施する。

IV 授業科目について

健康科学部理学療法学科における授業科目は、全学部共通基盤科目群、外国語科目群、キャリア形成科目群、専門基礎科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ及び専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから構成されている。

V 授業科目の単位と認定

本学では単位制を採用している。単位制とは、一つひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対しては、試験もしくはその他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位の認定は、S・A・B・Cの4段階評価により行い、Fの評価は単位を認定しない。

VI 卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は、次の表に示すとおりである。

系 列	健康科学部理学療法学科	
	必要単位数	
全学部共通基盤科目群	5	15
外国語科目群	4	
上記科目群より、必修科目とは別に6単位修得すること	6	
キャリア形成科目群	4	
専門基礎科目群Ⅰ（基礎分野）	5	
専門基礎科目群Ⅱ（人体の構造と機能及び心身の発達）	16	
専門基礎科目群Ⅲ（疾病と障害の成りたち及び回復過程の促進）	15	
専門基礎科目群Ⅳ（保健医療福祉とリハビリテーションの理念）	4	
専門科目群Ⅰ（基礎理学療法学）	8	
専門科目群Ⅱ（理学療法管理学・理学療法評価学 理学療法治療学・地域理学療法学）	34	
専門科目群Ⅲ（総合演習・臨床実習）	23	
計	124	

VII 理学療法士国家試験受験資格について

本学科は、文部科学省令・厚生労働省令で定める基準に適合するものとして、文部科学大臣の指定した学校教育法に基づく大学として認可を受けている。本学科の所定の単位を修得し、卒業することにより、理学療法士国家試験受験資格を得る。

次に記載する各学年次における進級要件の内容と進級要件科目を熟知すること。各学年次で示された進級要件を満たさない場合は進級することができない。

VIII 進級基準

卒業要件を満たす単位は 124 単位以上である。各学年次に配当されている必修科目・選択科目の単位は配当年次に修得することが望ましい。

- 1 年次：年間を通じて学業の実態（履修登録・出席割合など）があり、次ページ（表 各年次で進級に必要な最低単位数を参照）に示した科目を含んだ 28 単位以上を取得すること
- 2 年次：2 年間の学業を遂行し、次ページ（表 各年次で進級に必要な最低単位数を参照）に示した 1・2 年次必修科目を含んだ 62 単位以上を取得すること
- 3 年次：3 年間の学業を遂行し、次ページ（表 各年次で進級に必要な最低単位数を参照）に示した 1・2・3 年次必修科目を含んだ 100 単位以上を取得すること
- 4 年次：4 年間の学業を遂行し、科目群ごとの要件を満たし、総単位数 124 単位以上を取得し、ディプロマ・ポリシーに掲げる学士にふさわしい能力を有していると認められること

各年次で進級に必要な最低単位数は、次の表に示すとおりである。

1 年生から 2 年生 推奨値 GPA : 2.0 取得単位 : 41 単位	次の科目を含んで最低 28 単位 人体の構造 1 科目 2 単位 人体の構造演習 1 科目 2 単位 人体の機能 1 科目 2 単位 人体の機能演習 1 科目 2 単位 運動学 I 1 科目 2 単位 運動学 II 1 科目 2 単位 基礎理学療法評価学 1 科目 2 単位 臨床実習 I (見学) 1 科目 1 単位 合計 15 単位
2 年生から 3 年生 推奨値 GPA : 2.0 取得単位 : 81 単位	次の科目を含んで最低 62 単位 基礎理学療法学 1 科目 2 単位 基礎理学療法学演習 1 科目 1 単位 基礎理学療法評価学実習 1 科目 1 単位 疾患別理学療法評価学 1 科目 2 単位 疾患別理学療法評価学演習 (神経系) 1 科目 1 単位 疾患別理学療法評価学演習 (運動器系) 1 科目 1 単位 疾患別理学療法評価学演習 (内部障害系) 1 科目 1 単位 疾患別理学療法治療学 1 科目 2 単位 日常生活活動学 1 科目 1 単位 日常生活活動学実習 1 科目 1 単位 理学療法学セミナー I 1 科目 1 単位 臨床実習 II (検査・測定) 1 科目 3 単位 合計 17 単位
3 年生から 4 年生 推奨値 GPA : 2.0 取得単位 : 107 単位	次の科目を含んで最低 100 単位 疾患別理学療法治療学実習 (神経系) 1 科目 1 単位 疾患別理学療法治療学実習 (運動器系) 1 科目 1 単位 疾患別理学療法治療学実習 (内部障害系) 1 科目 1 単位 義肢装具学実習 1 科目 1 単位 発達系理学療法学 1 科目 2 単位 スポーツ系理学療法学 1 科目 1 単位 理学療法学セミナー II 1 科目 1 単位 地域理学療法学 1 科目 2 単位 地域理学療法学演習 1 科目 1 単位 臨床実習 III (評価) 1 科目 4 単位 合計 15 単位

各クォーターの履修登録については 13 単位までとする。なお、S1, S2, SS の期間、及び F1, F2, WS の期間では、それぞれ 30 単位までとし、SS では 5 単位、WS では 7 単位までとする。年間の履修登録については原則 42 単位までとする。ただし、累積 GPA が 2.0 以上の場合は、年間の履修を 49 単位まで認める。

IX 授業科目の学年配当と履修すべき単位数

1. 全学共通基盤科目

全学部、全学年の学生を対象として設置される科目である。各学部の専門の学びの基盤となる文理の壁を越えた幅広い教養を身に付けることを目的とする。

*単位数に○印を付してある科目は必修，() を付している科目は選択推奨を示す。

系列	カテゴリ	授業科目	年次及び単位数				最低修得単位数	備考
			1年	2年	3年	4年		
全学部共通基盤科目群	大学での学びの基礎を固める	アカデミック・スキルズ	①				5 単位	必修 5 単位を含み、 外国語科目群と合わせて、 15単位以上を取得
		自然科学概論	2					
	現象世界をつかむ	生命現象の理解とその応用－生命科学	2					
		生物からみた環境の仕組み－生態学	2					
		食環境論	2					
		香りと環境	2					
		身体の理解	(2)					
	デジタル社会を切り拓く	データ分析の基礎(解析)	2					
		データ分析の基礎(線形代数)	2					
		情報セキュリティ A	2					
		情報社会と情報倫理	2					
		人工知能論	2					
		データサイエンス I	②					
		データサイエンス II	2					
		モデル化とシミュレーション	2					
		プログラミングA	2					
		アルゴリズムA	2					
		情報システム論	2					
		統計学		(2)				
		デジタルアプリ A	②					
デジタルアプリ B	2							
インターネット配信	2							

系列	カテゴリ	授業科目	年次及び単位数				最低修得単位数	備考
			1年	2年	3年	4年		
全学部共通基盤科目群	現代社会の課題に挑戦する	観光の現在と未来	2				5 単位	必修 5 単位を含み、外国語科目群と合わせて、15単位以上を取得
		ヘルスツーリズム	2					
		社会心理学	2					
		生活と文化		2				
		生涯スポーツ概論	2					
		スポーツ社会学	2					
		ボランティア論	2					
		コミュニケーションの基礎	2					
		域学共創プロジェクト A	2					
		域学共創プロジェクト B	2					
		域学共創プロジェクト C	2					
		域学共創プロジェクト D	2					
		域学共創プロジェクト E	2					
		域学共創プロジェクト F	2					
		域学共創プロジェクト G	2					
		域学共創プロジェクト H	2					
		域学共創プロジェクト I	2					
	域学共創プロジェクト J	2						
	歴史をひもとく	史学概論	2					
		日本史を学ぶ	2					
		アジア史概論	2					
		現代史入門	2					
		房総の文化と歴史	2					
		映像メディア史	2					
		音楽史	2					
	社会の構造的変動をとらえる	政治学入門	2					
		経済学入門	2					
		社会と経営	2					
		社会と会計	2					
		マーケティング論	2					
		広告戦略論	2					
		社会学	2					
		社会調査		2				
		法律学概論	2					
		日本国憲法	2					
		著作権	2					
		社会福祉学 A	2					
		社会福祉学 B		2				
		経営情報基礎論 A	2					

系列	カテゴリ	授業科目	年次及び単位数				最低修得単位数	備考
			1年	2年	3年	4年		
全学部共通基盤科目群	世界を創造する	世界遺産のいま	2				5 単位	必修 5 単位を含み、外国語科目群と合わせて、15単位以上を取得
		美学・芸術学	2					
		表象文化研究	2					
		世界の文学	2					
		演劇研究	2					
		古典芸能研究	2					
		文学を読む	2					
	知の知を追究する	教育学	2					
		心理学	2					
		基礎の数学	2					
		ジェンダー論	2					
		根拠への問いー哲学へのとびら	2					
		宗教学概論	2					
		倫理学概論	2					
	心と身体を はかると 充実	異文化適応論	2					
スポーツ科学 A		1						
スポーツ科学 B		1						
		しゃべりのスキル Up I	2					

2. 外国語科目群

グローバル化が進む社会において求められる実践的な語学力を身につけ、国内外の多様な場面で円滑に意思疎通を図れる能力を養うことを目的として設置している。

*単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
外国語科目群	Fundamentals of English I	②				4単位	必修 4 単位を含み、全学共通基盤科目群と合わせて、15単位以上を取得
	Fundamentals of English II	2					
	Oral Fluency I	②					
	Oral Fluency II	2					
	TOEIC Preparation A	2					
	TOEIC Preparation B	2					
	TOEIC Preparation C	2					
	TOEIC Preparation D	2					
	English for Specific Purposes A	2					
	English for Specific Purposes B	2					
	English for Advanced Studies A	2					
	English for Advanced Studies B	2					
	中国語 I	2					
	中国語 II	2					
	韓国語 I	2					
	韓国語 II	2					
	スペイン語 I	2					
	スペイン語 II	2					
	ドイツ語 I	2					
	ドイツ語 II	2					
	フランス語 I	2					
	フランス語 II	2					
	ハンガリー語 I	2					
	ハンガリー語 II	2					
ポーランド語 I	2						
ポーランド語 II	2						
チェコ語 I	2						
チェコ語 II	2						

3. キャリア形成科目群

「キャリア形成科目群」は、社会で役立つ人材を育成するため、職業能力について考察し、実践すべき内容を具体化する科目群である。自らにとって意欲をもってできる仕事について考え、職業意識を高めて社会人として前向きに問題を解決実行できる能力を形成する科目を配置している。また、急速に進むグローバル化に対応し、国内外の国際的な場で活躍できる人材を養成するための海外研修を配置している。

*単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
キャリア 形成科目 群	基礎ゼミⅠ	①				4 単位	
	基礎ゼミⅡ		①				
	理学療法ゼミ			①			
	世界の理学療法	①					
	グローバル研修 A			1			
	グローバル研修 B			1			

4. 専門基礎科目群

「専門基礎科目群」は、「専門基礎科目群Ⅰ」“基礎分野”，「専門基礎科目群Ⅱ」“人体の構造と機能及び心身の発達”，「専門基礎科目群Ⅲ」“疾病と障害の成りたち及び回復過程の促進”，「専門基礎科目群Ⅳ」“保健医療福祉とリハビリテーションの理念”，そして，各学部との連携教育や学科共通科目群で学んだ基礎知識を発展させるための科目を配置している。

(1) 専門基礎科目群Ⅰ（基礎分野）

理学療法を学ぶ基礎を固め、医療人としての倫理観やコミュニケーション能力を身に付けるため、専門基礎科目群Ⅰ（基礎分野）を配置している。

* 単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群Ⅰ (基礎分野)	基礎物理学	①				5 単位	
	医療倫理学	②					
	医療コミュニケーション論	②					

(2) 専門基礎科目群Ⅱ（人体の構造と機能及び心身の発達）

専門基礎科目群Ⅱ（人体の構造と機能及び心身の発達）は，理学療法を学ぶにあたって必須である人体の仕組みと成りたち，そしてその機能を系統立てて理解し，さらに人体の運動や心身の発達について習得するための科目を配置している。

* 単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群Ⅱ (人体の構造と機能及び心身の発達)	人体の構造	②				16 単位	
	人体の構造演習	②					
	人体の機能	②					
	人体の機能演習	②					
	運動学Ⅰ	②					
	運動学Ⅱ	②					
	運動学演習		①				
	人間発達学	②					
	臨床心理学		①				
	機能解剖学			1			

(3) 専門基礎科目群Ⅲ（疾病と障害の成りたち及び回復過程の促進）

専門基礎科目群Ⅲ（疾病と障害の成りたち及び回復過程の促進）は、理学療法を学ぶために必要な各医学・医療分野の基礎を学び、健康、疾病、障害について、その予防と発症・治療、回復過程に関する知識を習得し、理解力、洞察力、判断力を養うとともに、栄養や救急救命、画像診断など医療に関する幅広い知識を学ぶための科目を配置している。

*単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群Ⅲ (疾病と障害の成りたち及び回復過程の促進)	整形外科系医療学		②			15 単位	
	内科系医療学		②				
	精神医学系医療学		①				
	公衆衛生学			①			
	病理学		②				
	神経内科系医療学		②				
	薬学概論		①				
	医療概論		②				
	老年学			①			
	障害予防概論			①			

(4) 専門基礎科目群Ⅳ（保健医療福祉とリハビリテーションの理念）

専門基礎科目群Ⅳ（保健医療福祉とリハビリテーションの理念）は、理学療法を学ぶ上で重要な社会保障論や地域包括ケアシステムなどの保健医療福祉の知識と自立支援や就労支援を含むリハビリテーションの理念を学び、またチーム医療を実践するために必要となる連携教育の理念と実践を学ぶための科目を配置している。

*単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群Ⅳ (保健医療福祉とリハビリテーションの理念)	リハビリテーション科学	②				4 単位	
	保健医療福祉概論		①				
	多職種間連携教育			①			
	多職種間連携教育実習			1			
	生活環境論			1			
	理学療法教育法				2		

5. 専門科目群

「専門科目群」は、「専門科目群Ⅰ」「専門科目群Ⅱ」「専門科目群Ⅲ」に区分している。

「専門科目群Ⅰ」では、“基礎理学療法学”の修得を目的とした科目を配置している。

「専門科目群Ⅱ」では、“理学療法管理学”，“理学療法評価学”，“理学療法治療学”，“地域理学療法学”を学ぶことを目的とした科目を配置している。

(1) 専門科目群Ⅰ（基礎理学療法学）

専門科目群Ⅰ（基礎理学療法学）は、系統的に理学療法を理解できるよう、基礎的な科目から研究マインドを養う科目まで配置している。

*単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ (基礎理学療法学)	理学療法概論	②				8 単位	必修6単位を含み、 8単位以上選択必修 ※卒業研究Ⅱは卒業研究Ⅰの単位を修得したもののみ履修可能
	理学療法研究法			①			
	医療統計学			1			
	卒業研究Ⅰ			1			
	卒業研究Ⅱ※				1		
	基礎理学療法学		②				
	基礎理学療法学演習		①				
	バイオメカニクス論			1			

(2) 専門科目群Ⅱ

専門科目群Ⅱは、理学療法を学ぶ上で重要となる理学療法管理学、理学療法評価学、理学療法治療学、地域理学療法学に関する細科目群を配置している。理学療法管理学では、医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、理学療法教育に必要となる能力を培うとともに、職業倫理観を高めるための科目を配置している。理学療法評価学では、理学療法を学ぶ上で重要となる理学療法評価の理論と実践技術、また理学療法評価実践のために必要となる画像情報を理解するための科目を配置している。理学療法治療学では、理学療法を学ぶ上でその根幹となる理学療法治療学を疾患別、障害別に適用するための知識と技術を培うための科目を配置している。地域理学療法学では、理学療法の対象となる全てのヒトに対して、地域における生活を支援するために必要となる理学療法の知識を学び、実践力を高めるための科目を配置している。

*単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅱ	(理学療法管理学)	職業倫理管理学				②	34 単位 必修 31 単位 を含み, 34 単位以上選 択必修
	(理学療法評価学)	基礎理学療法評価学	②				
		基礎理学療法評価学実習		①			
		疾患別理学療法評価学		②			
		疾患別理学療法評価学演習 (神経系)		①			
		疾患別理学療法評価学演習 (運動器系)		①			
		疾患別理学療法評価学演習 (内部障害系)		①			
	(理学療法治療学)	疾患別理学療法治療学		②			
		疾患別理学療法治療学実習 (神経系)			①		
		疾患別理学療法治療学実習 (運動器系)			①		
		疾患別理学療法治療学実習 (内部障害系)			①		
		日常生活活動学		①			
		日常生活活動学実習		①			
		義肢装具学		②			
		義肢装具学実習			①		
		物理療法学		②			
		物理療法学実習		①			
		発達系理学療法学			②		
		スポーツ系理学療法学			①		
		理学療法学セミナーⅠ		①			
		理学療法学セミナーⅡ			①		
		理学療法技術演習 (発達・高次脳機能)			1		
		理学療法技術演習 (徒手技術)			1		
		理学療法技術演習 (呼吸・循環・代謝)			1		
		理学療法技術演習 (先進医療機器)			1		
		理学療法技術演習 (スポーツ)			1		
		理学療法技術演習 (トレーニング)			1		
	(地域理学療法学)	地域理学療法学			②		
		地域理学療法学演習			①		

(3) 専門科目群Ⅲ（総合演習・臨床実習）

専門科目群Ⅲ（総合演習・臨床実習）は、早期に理学療法を経験するための見学実習を始め、多様化する理学療法の社会的ニーズに対応するために必要となる臨床的観察力・分析力を養うための実践研修、治療計画の立案・実践能力を身につけるための学び、また地域における理学療法の学びを経験する機会を設けている。さらに理学療法に関する総合的な学びをするための科目を配置している。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅲ （臨床実習） （総合演習・ 地域実習）	理学療法学総合演習 A				①	23 単位	臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳおよび地域実習の単位修得には出席すべき日数の4/5以上の出席が必要。各実習への参加要件を下部へ記載。
	理学療法学総合演習 B				②		
	臨床実習Ⅰ（見学）	①					
	臨床実習Ⅱ（検査・測定）		③				
	臨床実習Ⅲ（評価）			④			
	臨床実習Ⅳ（総合）				⑩		
	地域実習				②		

実習への参加要件

臨床実習Ⅰ（見学）：なし

臨床実習Ⅱ（検査・測定）：2年次までの必修科目（基礎ゼミⅡを除く）がすべて取得見込みであること

臨床実習Ⅲ（評価）：開講時までの必修科目（理学療法ゼミを除く）がすべて取得見込みであること

臨床実習Ⅳ（総合）：開講時までの必修科目（理学療法学総合演習Aを除く）がすべて取得見込みであること

地域実習：臨床実習Ⅳ（総合）を取得見込みであること